



# 本島人の團結心

陳紹

馨

違ひがあつても、年輩の相違するものは皆叔父甥を名のり、宛然一家となしてある。計劃禍福につき又日々の仕事につき部落同士は親身に互に助け合つてゐる。

南部のある山村に筆者が生活してゐた時の事である。ある時夜中の三時頃に大いなき蛇に咬まれて苦悶してゐる、部落で良い薬を知つてゐる人がゐるので頼みに行つた處「何處のものだ」「他處から來たものだ」

「他處から來たものなら死なしておけ」といふ押問答で相手にして下れないといふのである。眠い目をこすりながら出かけ、やつとのことなだめて薬を探らし、手當を濟した後に「救人一命勝造七級浮屠」といふで

はありませんか。何故、他處から來たものなら死なしておけといふ様な情ないことをいふのです、と筆者はたしなめた。その返事が面白い、部落のものなら氣心が知れてゐるからどういふ事があつたつて訓誡が起らないが、氣心の知れない他處のものに手當をして萬一手違ひでもありましたらどうします、と。

部落のものが蛇に咬まれた時この男は頼まれなくとも自ら進んで草深い谷間をかき分け薬草を探つて手當をしてやつたのである。それ程に部落同士の結合は強固である。部落同士のものなら若干の貧富の

ものがあつても互にかばひ合つて決して他にはもらさない。萬一密告でもするものが居れば「裏切者」として強い訓誡が加へられるのである、それ程に彼等の團結心は強固であり、そしてそれだけ外來者に對する反感は激烈である。彼等は外來者を「出外人」と稱して之にたへず排斥のまなこを注いでゐる。部落の若いもの同士の色事は彼等の間のゴシツプの種子に過ぎないが、出外人の青年が部落の娘にいたづらでもしようものなら部落全體に對する侮辱として中々承知しない。内における結合が固けれ

ば固い程外に對する反撥が強いのが古來の通例である。

この事實から見て本島人に團結心がないといふのは必ずしも當つてゐないといふことが明かである。問題は、彼等の團結心が自分達の小部落に限られてをり國家社會への團結心即ち愛國心でない、といふ點に在してゐる。この山間の部落民には、彼等の平和安穩な生活は何に負ふものであり、どなたの御蔭であるか、はつきり認識されてゐない。多分に自足的な封建的な生活をしてゐる彼等にとつて部落は彼等の全世界であり、團結心が一小部落に限られるのも自然の勢であらう。

純朴な村落から小さな田舎町に目を轉じて見やう。此處では社會はある程度分化してをり、貧富もある程度の懸隔が生じてをり、地方の公職、殊に産業組合を中心として地方の有力者や顔役が黨派を組んで抗争してゐるのが當である。事變前から事變後

暫くの間における地方産業組合の黨争には當局もほと／＼手を焼いたものであつた。

蝸牛角上何事を争ふとがめても仕方がない。事實多數の地方民にとつて、大人とも交際があり信用組合でも顔がきく有力な顔役に組むことは相當實質的な利益を齎すものであるから。大きい都會になると流石文明が進んでゐるだけに體裁の悪い喧嘩はせず上品にたちまわるが、併しそれだけ陰險であり卑もあらぬものがある。

如上の事實から見ても本島人に團結心がないと斷せられるが、併しこれも必ずしも當つてはゐない。といふのは、我黨を組んで抗争するのは強い團結心の表現であるから。要は如何なる點において團結し如何なる點において抗争すべきかを誤つてゐるのみである。

## 二

學者の研究によれば人間は一面において團結の本能があると共に他面において闘争

の本能がある。この團結と闘争の兩本能は全然相反對のものであるが、併し相表裏し、形影相伴ふものである。一面における團結は他面における抗争として現れ、他面における抗争は一面における團結として現れるものである。例へば政友會と民政黨を例にとつて見やう。天下泰平の時には兩政黨共に内に固い結合をして錐を削つて天下を争つたが、ひと度支那事變が起り國民こそつて外敵に當るや、政黨は解消し大同團結して了ふのである。天下泰平の時と雖も兩大政黨相向ふ時はそれ／＼一體となつてゐるが、ひと度一黨が天下を獨するや大臣の椅子をめぐつて同一黨内における甲派と乙派とが相拮抗することがある。團結及抗争、結合及分離は實に微妙に動き複雑に働く本能である。

アナトール・フランスは嘗てこういふことを書いてゐた。ある演説會で辯士が長廣舌をふるつてゐたが會場がだらけて聴衆が

さつぱりついて來なかつた。しまりのない演説を終つた後に雄辯の士が之に代つたが、演壇に立つや彼は眞赤になつて前列の一聴衆を指して之を面罵した。公の席上で何故君はそんな失禮な事をするか、實にけしからぬ」と。だらけてゐた聴衆はこの大喝一聲にすばこそ一大事と件の人に注意を集中し、いきり立つて之をのゝしつた。我が艦隊の太旗は矢張り追廻せしめ、聴衆をなだめてやをら本題に入つたのであるが、ひと度全聴衆の心を握つた後彼の演説はすばらしい大成功を収めたのである。事實氣の毒な犠牲者は何等失禮なことをしたのでなく、聴衆の精神を統一せしめる方便に、つまり内における團結をかためる爲の假想外敵として、利用されたのである。内における結合が固ければ自然外敵に對する敵對が熾烈になるが逆に外敵に鋭く對立せしめることによつて内の結合を固めることも出来る。この點においてヒットラーは實

に卓越せる群衆心理學者であると謂はなければならぬ。彼の異民族排斥、殊にユダヤ人排斥は國內における民心の集中統一のタクティクと謂はれてゐる。更に蒋介石の抗日にしても、直接的目的もさることながら之を國內統一の一つのタクティクとして用ひてゐることは明かである。外に對する敵對心を固めることによつて内における統一結合を固める戦法、或は比較的無關心の相手の精神を共通の敵に向けしめることによつて相手をしつかり味方に抱へ込む戦法は、古來史上にその事例に乏しくない。

團結心があるか否かといふ問題からして既に非科學的である。人間である以上團結心がなければならぬ。善良な市民に團結心がある如くに、否、それ以上に山賊の仲間や博徒の仲間にも強い團結心が存してゐる。團結の裏には必ず對抗が存してゐる。問題は如何なる點において團結し如何なる

點において對抗してゐるか、そしてその結合と分離とが當時の綜合社會に對して妥當するものであるか否か、といふ點に存してゐる。臺灣の事例について謂ふなら、村落においては未分化（或ひは分化の程度の低い）部落が團結の中心で部落外のもの（外來者）として敵對されてをり、分化した小さな田舎町や大きな都會においては同類のもの（國に結合が行はれず派閥に對立が行はれてゐるのである。それ故に本島人に團結心がないと謂ふのは當らないことで、現在の本島人の團結抗争の主體が國家生活上より見て、殊に戦時下における國家生活より見て妥當でない、即ち非常時國家に存在すべき團結心は歐々たる部落や黨派への愛護心でなく、外敵への熾烈なる敵愾心を裏に有つ強烈なる愛國心でなければならぬ。といふ點に問題が存してゐるのである。

三

團結心は一つの意識内容である。愛は理解より生ずるもので、國家社會への團結心、即ち愛國心を有つには國家の歴史、國家の姿に對する明確な認識がなければならぬ。國民教育はこの點において種々な意義を有するものである。本島人大衆の多數が明確な愛國心を把握し得ない原因の一つは、この點に缺く處がある爲である。併し義務教育の實施と共にこの點は是正されるであらう。愛國心は意識内容であるが併し單なる意識内容でなく、おのづからそれに對應する客觀的基礎がなければならぬ。國民の一人々々が直接間接國政に參預し、國家と休戚を共にして初めて心からの愛國心が湧き上るのである。驕つて本島人を見るに、帝國の治下になつてから治安確保された、各人に宏同樂樂して慥かに法劇行政上の諸規則を尊奉し租税を納めるのみで

未だ直接に國家の憂を分つ機會がなく、君恩のありがたきを心に懐いても切實に心からの愛國心が流露するに至つてゐない様に思はれる。併しこの度の事變に軍夫或は通譯として從軍の機會を惠まれたものにとつては、自分達の生活が區々たる部落や街庄に取られるものでなくて大きな忙艱に晒されてゐるものであり、自分達の運命が偉大なる國家活動に結びつけられてゐる事を、身を以て體驗したのである。出征軍夫の内帝國軍人たるに恥しくない働きをしておほめの言葉をいたゞいたものが幾多あるが、之は何を物語るものであらうか。輝かしい國家活動の中に投げ込まれた本島人が帝國臣民としての團結心——愛國心に目ざめて來たものでなくて何であらう。愛國心は單に口で説得し、頭腦で理解せしめ得るものでない。力強い協働と體驗によつて自ら流露するものである。義務教育が實施され、徴兵令が施行されて本島人にも國家の干城

として堂々御國に盡す權利が與へられた時、有色人種を解放し世界平和の爲の聖戰に銃をとることが出来る時、本島人の心に油然として熱烈なる愛國心が流露しないと誰が斷言し得ようか。

現在における大多數の本島人の所謂團結心が極めてなげかかしいものであることは固より論議の餘地がない。併し之を以て本島人に團結心なしとして匙を投げるなら最早何をか謂はんやである。指導者たるものは須く團結心の何たるやを見きはめなければならぬ。一方において生活圏を擴大せしめ生活を直接的な國家活動の中に織り込ませると共に、他方において視野を擴大せしめ、以て部落への團結心を街庄へ、郡へ、州へ、臺灣への團結心に、引いては帝國への團結心即ち愛國心に展開せしめ、部落民同士への敵對心を外敵へ、有色人種を蠶食する敵性白人への敵愾心に、導かなければならぬ。かくして東亞の黎明、世界の黎明の曙光が望まれるのである。